

研究テーマ	主体的・対話的な学びを通して、豊かな感性を育てる指導の工夫 －第3学年「墨と筆の芸術」の実践を通して－
-------	--

つくばみらい市立伊奈中学校 教諭 坂本 白百合

I 研究テーマについて

学習指導要領の目標や改訂の基本方針を踏まえたとき、美術や文化について理解を深めるための鑑賞指導の工夫が必要である。古くから伝わる美術作品や生活の中の様々な用具や造形について鑑賞し、よさや美しさを味わう活動を通して、その時代に生きた人々の美意識などを感じ取れるようにしたい。また主体的・対話的な学習展開の工夫を通して、生徒の見方・感じ方を深めることが美術科の課題であると考えた。

II 研究の実際

1 題材名 墨と筆の芸術 ～水墨画の美～

2 題材の目標

- 水墨画に関心を持ち、表現のよさや美しさを進んで感じ取ろうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 墨と筆による表現の特徴を生かしながら、自分なりの想像力を働かせて水墨画を表すことができる。
(発想や構想の能力)
- 破墨や没骨法・たらしこみなどの技法を理解し、墨や筆などの使い方を工夫して仕上げ方を考え、水墨画を表すことができる。
(創造的な技能)
- 表現の工夫や特徴から、作者の思いや願いを感じ取り、作品の相違点を明らかにすることで、日本の美術のよさや美しさを味わうことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は制作活動や鑑賞に前向きに取り組んでいる。修学旅行で歴史的建造物を目の当たりにした経験から、日本の美術についての関心も高まりつつある。水墨画の制作や鑑賞に対しても期待はあるが、和紙や墨筆などの道具の扱いに不安を感じている生徒も少なくない。

意識・実態調査（実施生徒数30名）

- | |
|--------------------------------------|
| ○日本の美術に関心がありますか。 |
| とともある2名 ややある18名 あまりない6名 ない2名 分からない2名 |
| ○水墨画に関心がありますか。 |
| よくある0名 少しある23名 あまりない6名 ほとんどない1名 |
| ○水墨画を制作するときに、気を付けたいことはありますか。（複数回答可） |
| とともある2名 ややある19名 あまりない6名 ない2名 分からない2名 |
| ○水墨画の鑑賞や制作の際に気を付けたいことは何ですか？（複数回答可） |
| 画面の構成 6名 下絵8名 墨の濃淡17名 運筆19名 技法8名 |

(2) 題材観

学習指導要領解説美術編にはB鑑賞(1)ウ「日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること」とある。本題材では水墨画の表現と鑑賞を一体的に取り上げ、日本の美術への関心を高めるとともに表現の特徴を見出しつつ、よさや美しさを味わわせたいと考えた。

(3) 指導観

題材の導入時には、近・現代の水墨画を鑑賞し、画家がどのような思いや願いをもって制作したのかに着目した鑑賞を行い、日本の美術である水墨画への関心を高める。制作の際には、「破墨」や「たらしこみ」などの多様な表現方法を示して制作につなげ、水墨画が多くの画家たちに育まれながら時代に応じて変容し今日に至っていることに気付かせる。自他の作品を鑑賞する際には、絵巻や掛け軸・屏風など、仕上げ方に応じた作品の扱い方と鑑賞方法を理解させ、それぞれのよさを味わわせたい。題材のまとめとなる「秋冬山水図冬景」の鑑賞では、水墨画を大成した雪舟の筆法と美意識に迫りつつ、中国山水画との相違や共通性、今日に至るまでの水墨画の変遷につなげることで、継承されていく日本美術のよさや美しさを感じ取らせたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
水墨画の表現のよさや特徴を生かして、作品を表そうとする。	水墨画の多様な表現技法を用いて表したいものを考えることができる。	水墨画の表現のよさや特徴を生かして、作品を表すことができる。	自他の作品や、美術作品を鑑賞し、水墨画のよさや美しさを味わう。

5 指導と評価の計画(8時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	近現代美術としての水墨画を鑑賞し、日本の美術のよさや美しさに親しむ。	雪村や横山大観などの水墨画を鑑賞し、近・現代の表現や作者の思いを感じることができる。鑑【観察・ワークシート】
第2次 ⑤	破墨や没骨法などの水墨画の表現技法を知り、濃淡や運筆などの表現のよさや特徴を生かして、作品を表す。	多様な技法の面白さを感じ取り表したいものを考え表現を工夫して表すことができる。発・表【観察・ワークシート・作品】
第3次 ②	自他の作品を鑑賞する。	自他の表現のよさや工夫を味わうことができる。鑑【観察・ワークシート】
	「秋冬山水図・冬景」を鑑賞し、雪舟の水墨画のよさや美しさを味わう。	雪舟の作品の特徴やよさをとらえ、見方や感じ方を深めることができる。鑑【観察・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 目標

- ・対話型鑑賞を取り入れ、構図や表現技法から雪舟の思いや願いを感じ取るとともに、中国山水画や他の作品との相違点や共通点を読み取る活動を通して、日本独自の水墨画風の表現について見方や感じ方を深めることができる。

(2) 準備・資料

- 雪舟「秋冬山水図 冬景」(雪舟)(掲示用・生徒用各グループ1枚)・電子掲示板
- 「水墨画の鑑賞の手引き」・比較する作品・ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ※は主題に迫る手だて ㊦は評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>「秋冬山水図 冬景」を鑑賞して、雪舟が表した理想郷のよさや美しさ味わおう。</p> <p>2 「秋冬山水図冬景」を鑑賞する。</p> <p>(1) 感想や疑問点をかく。</p> <p>《予想される疑問点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央の線は何だろう？ ・点は何を表しているのだろうか？ ・人はどこに行くのだろうか？ ・左上の白い部分は何だろう？ <p>(2) 対話型鑑賞を行う。</p> <p>〈グループの中の役割〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いかけをする生徒 ・問いかけに答え鑑賞する生徒 <p>〈感じ方を深める〉</p> <p>「どんなところでしょう。」</p> <p>「なぜ、そう思いましたか」</p> <p>「何をしているのでしょうか。」</p> <p>「どうして、そう感じましたか」</p> <p>「これから、どうなるのでしょうか。」</p> <p>〈見方を深める〉</p> <p>※「なぜ」「どうして」と問いを重ねて、感じ方の根拠を明らかにする</p> <p>→構図・墨の濃淡・表現技法など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・墨と筆による多様な表現の面白さについて話し合い、本時の学習への意欲を高める。 ・学習カードに疑問点を記述する際には、作品のどの部分から感じたことかを明らかにしながら紹介し、全員で共有することで、対話型鑑賞を行う際の問いかけに加え課題解決の手がかりとする。 <p>※「水墨画の手引き」を使って、グループ内の生徒の役割を確認するとともに、1人の見方や感じ方に偏らないように気を付けることなどの注意点を確認し、対話型鑑賞がスムーズに行えるようにする。</p> <p>※鑑賞者の発言に対し、「なぜ」「どうして」と問い重ねる質問を繰り返すことで、構図や技法の特徴を明らかにすることで見方を広げるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞者の言葉が途切れがちなグループには問いかけの言葉の後に、「他には何かありますか。」と作品への注視を促す問いを加えるよう助言し、新たな見方に気付くことができるようにする。

<p>(3)「秋冬山水図冬景」と他の作品を比較し相違や共通点を見出す。 〈比較のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構図について ・描かれているもの場面の流れ ・墨の濃淡や表現技法について <p>(4)グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に「秋冬山水図 冬景」と比較した作品について、話し合ったことを伝え合う。 <p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1)「破墨山水図」を鑑賞する。</p> <p>(2)学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが深まったグループは、中国山水画など、他の水墨画の作品とと比較するよう助言し、共通点や相違点を見いだすことで、雪舟独自の水墨画風の表現のよさを追究できるようにする。 <p>㊦対話型鑑賞を通して、雪舟の「秋冬山水図冬景」の表現の特徴や工夫に気付き、水墨画のよさや美しさを感じることができたか。(観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想が書けない生徒には、疑問点について分かったことや、他グループの発表から気付いたことを記述するよう助言し、自分の見方の深まりを実感できるようにする。 ・表現のよさや美しさについて、十分に感じ取っている生徒には、中国山水画との相違や水墨画の変遷に着目させ、雪舟の自然観や作品観などもまとめるよう助言する。 ・雪舟が晩年に制作した「破墨山水図」の書画を紹介し、山水画の共通点について気付くことができるようにする。 ・日本美術としての水墨画の表現の特徴やその変遷を伝え、学習のまとめにつなげる。
--	---

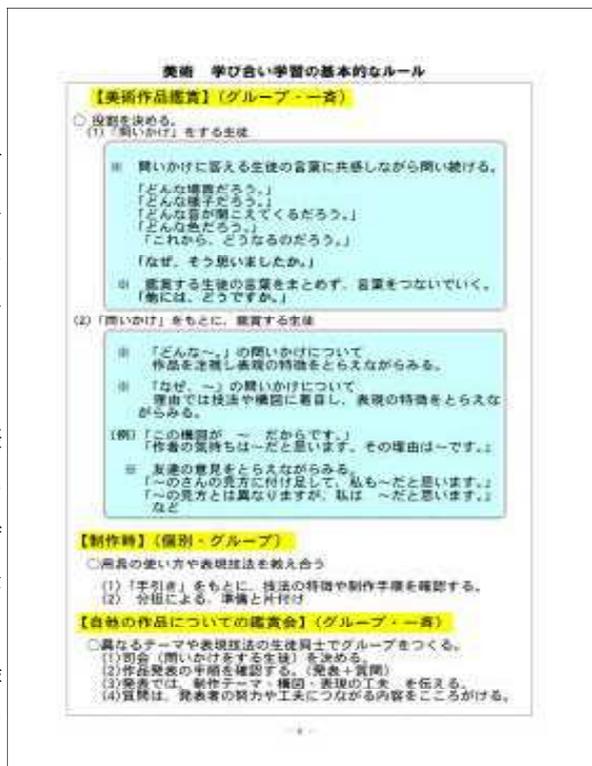
(4) 研究の内容研究の実際

ア. 学習計画の工夫

題材の導入では、生徒達が修学旅行で鑑賞した二条城の襖絵や白書院の水墨画の比較を行い、それぞれのよさについて話し合った。そこから近代の水墨画の鑑賞につなげたことで、生徒の関心を高めた。

制作時には、花鳥風月をとらえた様々な作品を鑑賞しながら水墨画を表した。破墨やたらしこみなど水墨画独特の表現の仕方を理解し、そのよさや美しさを実感することができた。

題材のまとめとなる鑑賞では、水墨画の多様な表現の効果を踏まえて作品を鑑賞し、見方を深めた。



イ. 「鑑賞の手引き」を活用した話し合いの工夫

美術作品の理解を深めるためには、「描かれているもの」「構図」「表現方法」「作品の主題」など、多面的に鑑賞することが重要である。生徒が個々に感じ取ったことをもとに「鑑賞の手引き」を使って話し合い見方を深めた。

雪舟の「秋冬山水図冬景」について、「どんな場面でしょう。」という問いかけを用いて鑑賞を展開した。問いかけによりグループの生徒の視点が作中の人物に向けられた。生徒の見方について「何故、そう思うのですか。」と理由について問を重ねることで人物の動きに目的を見出し、画面前方と後方にそれぞれ視線を移して、考えを深める様子が見られた。問いかけをする生徒の中には、自分が導入時にワークシートに記述した疑問点についても問いを加え、それを解決させようとする様子が見られた。右下に先端だけ描かれた船と、そこから続く道をつなげることで、画面の中の人物が、船を降りて道の先にある家に向かって歩いているのではないかと考え、人物についての疑問を解決する様子が見られた。

水墨画の鑑賞の手引き 〈問いかけの工夫〉

○ 鑑賞の役割

- ・ 問いかけをする生徒
- ・ 問いかけをもとに鑑賞する生徒

問いかけをもとに鑑賞する。【鑑賞のポイント】

〈問いかけの例〉

「どんな場面だろう。」

『なぜ、そう思いますか?』

「○○は、どんな様子だろう。」

『なぜ、そう思いますか?』

「どんな音がきこえると思いますか?」

『どうして、そう思いましたか?』

「どんな、色だと思いませんか?」

『どうして、そう思いましたか?』

「これから、どうなると思いますか?」

『なぜ、そう思いましたか?』

※ 繰り返し問いかけて、詳しく読み取ろう。

〈感じ方を深める〉

「どんな～」の問いかけ

- ・ 時間の流れ・空間の広がり
- ・ 描かれている水や人
- ・ 題名と場面との関わり等

「なぜ～」 「どうして～」

〈見方を深める〉・ 構図・ 墨の濃淡・ 表現技法など

〈グループの対話型鑑賞の様子から〉

- A 「どんな場面でしょう。」
- B 「山の風景だと思います。」
- A 「何故、そう思いましたか。」
- B 「ここに崖のようなものが見えるからです。」
- A 「他には何が見えますか?」
- C 「下の道を人が歩いているのが見えます。」
- A 「何故、そう思いましたか。」
- C 「人の足下が平らで、道のようになっているからです。」
- A 「何をしているところだと思いますか。」
- D 「道の向こうの家に帰るところだと思います。」
- A 「何故、そう思いましたか。」
- D 「家に向かって道が延びているし、人の後側には道がないから、船から降りて家に向かって歩いているのだと思います。」



ウ ワークシートの活用

導入時に、分からないことや疑問点などをワークシートに記述した。構図に着目し、絵の中心に入った縦の線や、その左側にある白い部分について記述した生徒もいれば、上部や下部など描かれていない部分があることについて記述した生徒もいた。それを互いに伝え合ったことで、生徒は様々な見方があることに気付くとともに、問いかけを用いてグループで鑑賞する際の手がかりにすることができた。

グループで話し合った後に、作品についてワークシートに記述したことで、導入時の疑問点などを振り返り、学習後の自身の見方の深まりを実感することができた。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

中学校第3学年の題材において、ワークシートを活用し言語活動の充実を図った鑑賞活動を通して、美術文化への理解が深まり、豊かな情操を養うことができたといえる。生徒の対話の様子やワークシートへの記述から、生徒自身が根拠を明らかにして作品のよさや工夫点を味わえるようになったと実感していることが分かった。また「破墨」や「かすれ」など水墨画の表現の特徴を表す言語や水墨画独特の構図の工夫を表す表現が会話や記述に見られるようになったことから、日本美術への理解を深めることができたといえる。

このように、対話型鑑賞を用いたグループによる話し合いが、作品の見方や感じ方を深める点で有効な手立てであることが分かった。

2 課題

今後は、話し合いにおける支援の工夫や補助簿の効果的な活用について、研究を行いたいと考える。